

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立鴻巣女子高等学校)

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にする指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実 施 日	
					(月 日 現 在)			年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	(現状) 学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、ICT 機器の環境整備も整い、オンライン授業の導入に向けた準備が進行している。 (課題) 教員の ICT 運用能力とそれに伴う授業力向上が必要である。また、生徒・教員の双方が、オンライン授業を円滑に実施できる校内体制の確立、ICT 機器を用いた学習支援体制等、新しい取組も必要である。	授業における ICT の活用等を通して、生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。	①学科毎に年間学習計画を説明する。(学年) 授業毎の年間学習計画を説明し各自の目標を明確にする。(授業担当) ②授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示して提出させる。(授業担当) ③授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当) ④各種研修会や授業公開週間等で教員間の学び合いを充実する。(複数回実施) ⑤ICTを活用した授業を実施する。(授業担当)	①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ④研修会等の実施状況と成果 ⑤実施回数					
2	(現状) 自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現状に沿った体系的な進路指導により一定の成果を得ている。 (課題) 多様な進路に対応する進路指導が必要である。特に、四年制大学への進学実績向上に資する取組が求められている。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充する。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部) ⑤進学補習や就職希望者への特別講座の実施(学年・進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ③進路未決定者の割合(前年度比較) ④保護者の進路行事参加状況と成果 ⑤実施回数など					
3	(現状) 学校行事等へ、多くの生徒が主体的に参画する姿勢が伺える。また、基本的生活習慣の確立や自己管理能力の向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。 (課題) 主権者としての意識を高める取組が必要である。特に、ネット社会のトラブル防止やマナー向上は保護者・地域からも期待されている。生徒の自己肯定感、コミュニケーション力を向上させるとともに、他者を思いやる「気付く」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力とともに他者を思いやる「気付く」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の使用法を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒指導部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増)					
4	(現状) コロナ禍により、地域等の催し物・イベント参加が難しい状況が続いている。また、外部の様々な団体でオンラインを活用した取組など、新しい連携方法も検討されている。 (課題) コロナ禍のような緊急事態においても外部連携や情報発信ができる体制の構築が必要である。生徒の社会貢献意識は高いため、外部との連携を深め、WIN・WINの関係づくりに学校全体で取り組むことが課題である。	オンラインの活用などを検討し、生徒の活躍の場をさらに広げ、自己肯定感や自己有用感を高める。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の内容を見直し改善を図る。(担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(担当) ④オンラインを活用した情報発信や外部連携を研究する(通年:教務部・特活部)	①③地域交流等の実施状況と成果 ①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増) ②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増) ④実施回数など					